

「遺留分算定の基礎となる財産」と「侵害額の算定方法」

1. 遺留分算定の基礎となる財産(民法1029条)

遺留分は、被相続人が相続開始の時に有した財産の価額に、その贈与した財産の価額を加えた額から債務の全額を控除して、これを算定すると規定しています。

$$\text{遺留分算定の基礎となる財産} = (\text{相続開始時の積極財産}) + (\text{贈与財産}) - (\text{相続債務})$$

「遺留分算定の基礎となる財産」は、被相続人が死亡したときに存在した財産です。相続開始時に遺産を構成している「遺贈」や「死因贈与」の財産は、この「遺留分算定の基礎となる財産」に含まれています。

2. 遺留分侵害額の計算式

$$\text{遺留分侵害額} = \text{遺留分の額} - \text{現実の相続利益額}$$

(A) (B)

$$A = (\text{遺留分算定の基礎となる財産}) \times \text{個別遺留分率}$$

$$B = (\text{被相続人から相続で取得した財産額} - \text{相続債務分担額}) - (\text{特別受益額} + \text{遺贈額})$$

3. 例題 (遺留分を侵害された者は誰か、その侵害額は幾らか?)

<p>(内容)</p> <p>被相続人の遺産 5000万円 負債 600万円 相続人 後妻と兄弟3人の計4名</p> <p>生前贈与 長男には、700万円 次男には、300万円</p> <p>遺言内容 4000万円を後妻に遺贈する。</p>	
---	--

(算式)

①(子1人当たりの遺留分)

$$\frac{(5000\text{万円} + 700\text{万円} + 300\text{万円} - 600\text{万円}) \times 1/2 \times 1/2 \times 1/3}{\text{積極財産} \quad \text{生前贈与} \quad \text{負債} \quad \text{遺留分の割合}} = 450\text{万円}$$

②具体的相続分(法定相続分-特別受益・遺贈)

後妻 $(5000\text{万円} + 700\text{万円} + 300\text{万円}) \times 1/2 - 4000\text{万円} = \Delta 1000\text{万円} \dots\dots 0\text{円}$

長男 $(5000\text{万円} + 700\text{万円} + 300\text{万円}) \times 1/2 \times 1/3 - 700\text{万円} = 300\text{万円}$

次男 $(5000\text{万円} + 700\text{万円} + 300\text{万円}) \times 1/2 \times 1/3 - 300\text{万円} = 700\text{万円}$

三男 $(5000\text{万円} + 700\text{万円} + 300\text{万円}) \times 1/2 \times 1/3 = 1000\text{万円}$

長男	$\frac{300\text{万円}}{300\text{万円} + 700\text{万円} + 1000\text{万円}} = \frac{3}{20}$	← 具体的相続分
次男	$\frac{700\text{万円}}{300\text{万円} + 700\text{万円} + 1000\text{万円}} = \frac{7}{20}$	
三男	$\frac{1000\text{万円}}{300\text{万円} + 700\text{万円} + 1000\text{万円}} = \frac{10}{20}$	

③現実の相続利益額

(遺留分)

長男 $\frac{3}{20} \times (5000\text{万円} - 4000\text{万円}) + 700\text{万円} - 100\text{万円} = 750\text{万円} > 450\text{万円}$ (侵害なし)
 (具体的相続分) × (残存積極財産) + (特別受益) - (相続債務分担額)

次男 $\frac{7}{20} \times (5000\text{万円} - 4000\text{万円}) + 300\text{万円} - 100\text{万円} = 550\text{万円} > 450\text{万円}$ (侵害なし)

三男 $\frac{10}{20} \times (5000\text{万円} - 4000\text{万円}) - 100\text{万円} = 400\text{万円} > 450\text{万円}$ (侵害している)

(結論)

後妻に対する遺贈は、長男・次男の遺留分は侵害していない。
 ただし、三男の遺留分を50万円(450万円-400万円)侵害している。

